

告示	番号	46	内分泌疾患
	疾病名	成長ホルモン（GH）分泌不全性低身長症（脳の器質的原因によるものに限る。）	

## 成長ホルモン（GH）分泌不全性低身長症（脳の器質的原因によるものに限る。）

せいちょうほ르몬ぶんびつふぜんせいていしんちょうしょう（のうのきしつてきげんいんによるものにかぎる。）

### 概念・定義

成長ホルモン分泌不全性低身長症(GHD)は GH 分泌不全による低身長症で、その他の下垂体ホルモン [TSH、ゴナドトロピン(LH,FSH)、ACTH あるいは ADH] の分泌不全を伴っていることもある(下垂体機能低下症)。

注：GHD の原因としては、器質的なものと特発性のものに分けられる。器質性 GHD には頭蓋咽頭腫、胚芽腫など脳の器質異常、頭蓋照射の既往、骨盤位分娩・仮死・黄疸遷延などの周産期異常によって引き起こされ頭部 MRI 検査で下垂体茎離断、異所性後葉あるいは下垂体低形成をみとめる場合が含まれる。特発性 GHD は成長ホルモン分泌不全性低身長症（脳の器質的原因によるものを除く）で述べる。

### 症状

GHD の病態は、成長率の低下であり、その結果低身長をきたす。重症型 GHD で骨盤位分娩・仮死・黄疸遷延などの周産期異常の既往がある症例では、乳幼児期からの成長障害がみられ、低血糖などの症状を伴うことがある。一般に本症では、原因となる器質性疾患の発症以降に身長増加率が不十分となり、低身長が進行する。

### 治療

GHD の治療は遺伝子組換え GH 薬の皮下注射（0.175mg/kg/週）で、毎日あるいは週 6 回程度の注射が必要なため自宅での自己注射が認められている。短期的には身長増加を促進して、なるべく早く身長を正常化し、低身長に伴う心理社会的問題の解決を図り、長期的には成人身長の正常化を目標とする。しかし、脳腫瘍など原因となる疾患によっては、GH 治療が再発・腫瘍増殖を促進する可能性が否定できず、数年間の経過観察の後に GH 治療を開始する場合もある。GH だけでなく、他の欠乏しているホルモンの補償療法も必要な場合もある。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/5\\_4\\_5.html](http://www.shouman.jp/details/5_4_5.html)